

広大な太平洋に面する高知県は、豊富な水産資源の恩恵にあずかる一方、過去幾度となく津波を伴う南海トラフ地震による被害を受けてきました。

本展では、江戸時代以降に高知を襲った南海トラフ地震を中心に取り上げます。古文書・絵画・写真など多様な資料から、これまでの被害や災害への人々の向き合い方を探ります。そして、過去を伝える歴史資料は、近年多発する災害や日常的な継承の課題により散逸の危機に直面しています。高知県内の事例を中心として、資料を守り、伝える活動もあわせてご紹介します。

関連行事

① 記念講演会
「地域の記憶を守り伝える」
 ～阪神・淡路大震災30年の経験から～
 講師：奥村 弘 氏 (神戸大学名誉教授)
 日時：5月17日(土) 14時～15時30分
 場所：当館1階ホール
 定員：80名(事前申込、先着順) ※参加費無料



② 企画展担当学芸員講座
「高知の地震災害史」
 日時：4月12日(土) 14時～15時30分
 場所：当館1階ホール
 講師：水松 啓太 (当館学芸員)
 定員：80名(事前申込、先着順) ※参加費無料

③ めざせ！石碑マスターの道
 講師：谷川 亘 氏 (国立研究開発法人 海洋研究開発機構 高知コア研究所主任研究員)
 水松 啓太 (当館学芸員)
 日時：5月11日(日) 9時30分～15時30分
 集合場所：当館1階ホール
 対象：小学校5年生～高校生 ※保護者同伴可
 定員：15名(事前申込、先着順) ※参加費無料
 ※昼食は各自で持参してください。



《①②③ 申込方法》 電話・FAXにて氏名・電話番号をお知らせください。3月11日(火)より受付開始

④ 体験して学ぼう！防災セミナー
 講師：楠瀬 淳司 氏、岡林 哲史 氏 ((株)フタガミ防災アドバイザー)
 水松 啓太 (当館学芸員)
 日時：4月27日(日)・5月24日(土) 10時～11時/13時30分～14時30分
 場所：当館1階実習室 ※参加費無料 ※申込不要
 〈協力〉(株)フタガミホームセンター部



⑤ 学芸員による展示解説
 日時：3月29日(土)、4月19日(土)、5月3日(土) 10時30分～(30分程度)
 場所：3階特別展示室(集合場所：当館3階土佐探索室前)
 ※参加費無料(要観覧料)

関連展示
学校による学習成果展
 当館2階 エントランスホールほか
 南海トラフ地震の歴史を学んだ児童・生徒が作成した学習成果作品を展示します。
 参加校：高知県立盲学校/高知市立三里中学校/土佐女子中学高等学校



1707 宝永地震
 絵図に記された地震の痕跡「甲浦図」部分(当館蔵)
 土佐沿岸の詳細な被害記録「谷陵記」(当館蔵)

1854 安政南海地震
 後世に教訓を遺す「宝永津浪溺死之塚」(須崎市指定文化財) 住職が見た震災「真覚寺日記」(真覚寺蔵) ※拓本を展示します。

津波デマに感う人々「安政地震絵馬」(佐川町斗賀野地区入寺山自治会蔵)

昭和南海地震
 津波被害に遭った宇佐町「昭和南海地震被災写真」(高知県提供)
 家族の戦死・空襲・震災を記す「三災記」(個人蔵)
 売値100円は震災寄付金「扇面」(中村博 画/高知県立図書館蔵)

1 土佐藩の歴史
ピックアップ 備後鞆津応接筆記
 坂本龍馬が隊長を務める海援隊が操縦するいろは丸と、紀州藩の明光丸が、鞆浦(広島県福山市)で衝突した、いろは丸事件をご存知でしょうか。資料には、龍馬が変名である才谷梅太郎の名で登場し、紀州藩と交渉した経緯が記されています。

2 土佐の文化
ピックアップ 山内家のおひなさま
 山内家に伝わった雛人形と雛道具を公開します。春らしい展示品とともに優美な世界をお楽しみ下さい。



大災害を経験した江戸時代の人々は、口承や石碑のほか、被災の記録を書き継ぐことなどによって、災害の記憶を継承していきました。当館の収蔵品から、その営みが垣間見える貴重な史料をご紹介します。

写真は暁印置文と通称され、南海トラフ地震の可能性も指摘される慶長九年(一六〇五)十二月十六日の地震に関する記録です。地震当時、現在の室戸市佐喜浜町に滞在していた僧の暁印が佐喜浜周辺を中心として四国東南部の被害を記したものとされます。

犠牲者の人数など、被害記録としての信頼性に乏しい部分もありますが、この史料の重要性は、南海トラフ地震が発生するたびに各地震の記録と結びつき、書き継がれる点にあります。実は、史料の後半部には、慶長地震から一〇二一年後の宝永地震(一七〇七年)の被害内容が付記されているのです。この史料は宝永地震からさらに五十七年後の宝暦



三月から始まる企画展「高知の地震災害史」紡がれた記憶と記録」では、暁印置文のほか、過去の南海トラフ地震にまつわる実物資料をご紹介します。皆さんが暮らす地域がどのような被害を受け、人々はどうのようにならざるを得なかったのかを探ります。ぜひ展覧会にも足を運んでください。

資料学芸員 水松啓太

城博コレクションの名品逸品

古文書をはじめとした歴史資料や歴代藩主の御道具など6万7千点の土佐藩山内家資料を核とした土佐藩・高知県ゆかりの収蔵資料の中から学芸員がオススメの名品や隠れた逸品をご紹介します。

暁印置文写

宝暦14年(1764) / 久保野家資料

十四年(一七六四)に書写されており、地震の記憶が記録となつて受け継がれている様子が見えます。

暁印置文は、宝永地震の記録「谷陵記」や幕末の安政南海地震の記録「三災録」にも引用されています。幕末の記録には、慶長地震・宝永地震・安政南海地震の発生間隔を基に、一〇〇年から一五〇年おきに大津波を伴う大地震が発生すると予想し、地震への備えを教訓として伝えるものもあります。

活動レポート

年末年始の催し イベント

当館では、多くの方に博物館に親しんでいただくため、観光シーズンや大型連休、記念日にあわせたイベントを開催しています。昨年末から年明けにかけては、お正月をテーマとした企画を行いました。

12月22日(日)には、毎年恒例の門松の公開製作「ジョーハクの門松」を開催。松竹梅の飾り方やしめ縄の結び方などについて、職人の方に解説いただきながら、参加者の目の前で組立て設置し、新年を迎える準備を整えました。

また同日開催の「季節の郷土料理教室」では、鯨入りの「暮れの煮物」と伝統的野菜を使った「土佐風の雑煮」を作りました。高知県(中部・東部)の雑煮の特徴「すまし汁に角餅」は、江戸時代に山内家が土佐に持ち込み広まったといわれます。参加者からは「高知独特の食材や作り方を学べた」「正月に家族と作りたいたい」などの嬉しい感想をいただきました。

年が明け、正月三が日は「博物館に初もうで」を開催。羽子板やコマ回しなど昔遊び体験、オリジナル絵馬・おみくじの販売、土佐風づくり教室、新春呈茶、獅子舞と抜刀術の実演、書道パフォーマンスなどを行い、元日から3日間で2,000人を超える方が来場され、お正月気分を楽しめました。

次回イベントは3月の開館記念行事「城博の日」です。皆様のご来館をお待ちしています。



新春を寿ぐ お正月の会 季節の催事

当館では、食や音楽を通して、日本や土佐の歴史や伝統文化にふれてもらう催しを年に数回開催しています。1月12日(日)には、季節の恒例催事である「新春を寿ぐ お正月の会」を開催しました。

まずは、松村紫乃氏&グループ、松村エリナ氏、阪口夕山氏による箏や尺八の演奏会から会をスタート。お正月の定番曲である「春の海」をはじめ、古典箏曲「六段の調」等計5曲が演奏され、その美しく華やかな音色に参加者のみなさんはじっくりと耳を傾けていました。

その後会場を和室に移し、山内家伝来のお正月料理を味わう食事会へ。料理は、RKC調理製菓専門学校の前田勇氏に調理いただきました。山内家のお正月料理には欠かせない鴨肉の雑煮をはじめ、小豆粥や鱈の照り焼き等、美しく盛りつけられた料理を、参加者は目と舌で味わっていました。

その他、御菓子司福留菊水堂さんによる、当館所蔵の『生菓子図案集』から特別に再現いただいた和菓子和菓子と抹茶、干支や新年にふさわしい縁起のよい資料がならぶ展示もお楽しみいただきました。

見る・味わう・聴く等の五感で堪能していただいた「博物館ならではのお正月」。ご友人やご夫婦での参加が多く、ふだんあまり博物館を訪れない方にとっても、歴史や伝統文化に気軽に親しむ良い機会になったという声が多く聞かれました。

広報・地域連携担当 企画員 筒井聡史
 教育普及課 学芸員 中屋真理



総合展示室 展示情報

歴史と美術、2室の総合展示で山内家資料の魅力を満喫

総合展示室 令和7年度 第1期 2月28日(金)～5月6日(火・祝)

総合展示室 第5期 2月14日(金)～4月14日(月)